

一般社団法人日本災害看護学会 平成 30 年度定時代議員会 議事録

日時：平成 30 年 8 月 9 日（木）16：00～18：00

場所：神戸国際会議場 4 階 401・402 会議室

会場出席代議員：近田敬子、臼井千津、牧野典子、鴫田猛、尾山とし子、久保恭子、森下安子、山崎加代子、大山太、三澤寿美、三橋睦子、太田晴美、東ますみ、中野則子、神崎初美、前田久美子、石田千絵、岡崎敦子、高橋和子、船越香緒里、長家智子、清末定美、若林稲美（組織）、小原真理子（組織）、高田早苗（組織）

出席理事・監事：山本あい子、南裕子、足立久美子、石井美恵子、小原真理子、山崎達枝、山田覚、酒井明子、渡邊智恵、三浦英恵、竹崎久美子（以上、理事）

寛淳夫、片田範子（以上、監事）（以上、出席理事・監事のうち代議員 11 名）

以上、敬称略・順不同

1. 開会

出席代議員 36 名、委任状 17 名であり、定款第 24 条および 24 条の 4 に基づき、代議員会は成立した。司会は南裕子副理事長、書記は三浦英恵で行われた。

2. 理事長挨拶

山本理事長より挨拶があった。

3. 年次大会長挨拶

第 20 回年次大会長の増野園恵氏より挨拶があった。

4. 議長指名および議事録署名人選出

定款第 22 条に従い、議長に山本あい子理事長が選任された。議事録署名人は立候補がなかったため、近田敬子氏（鳥取看護大学）、森下安子氏（高知県立大学）が議事録署名人として選出され、承認された。

5. 報告

1) 登録会員の推移（三浦理事）：代議員会資料 p1

- ・ 会員登録数が個人と組織合わせて 1,501 名であることが報告された。

2) 理事会報告（山本理事長）：代議員会資料 p2～6

- ・ 理事会の活動について山本理事長より報告された。

3) 代議員会報告（山本理事長）：代議員会資料 p6、7

- ・ 平成 30 年度代議員会はこの会議であり、平成 29 年 8 月に実施された代議員会については、議事録が HP に掲載されていることについて報告された。

4) 組織会員の予定（山本理事長、足立理事）：代議員会資料 p7

- ・ 本代議員会終了後に第 20 回組織会員会を開催する。

6. 議事

1) 平成 29 年度事業報告の承認：代議員会資料 p8～11

下記のとおり各事業を報告し、以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

(1) 学会誌編集・発行（山田理事）

学会誌 3 誌の発行、査読者の選任・委嘱、英文抄録のネイティブチェック、リポジトリ等について検討した。

(2) 組織会員の活動推進（足立組織会員理事）

第 19 回年次大会で情報交換会を開催、組織ブースを設置し、組織会員の入会促進活動等を行った。

(3) 社会貢献・広報活動（渡邊理事）

p8～9 の記載内容が間違っており、正しい内容については今後 HP 等に掲載すると説明があった。平成 29 年度事業報告として、以下の内容について口頭で報告があった。

ニューズレター（34 号・35 号）の発刊、ホームページの保守と管理、第 19 回年次大会で「市民公開講座」を開催した。

(4) ネットワーク活動（山崎理事）

災害時初期調査・初動調査、継続調査の実施、第 19 回年次大会でシンポジウムへの協力を行った。また、活動内容や活動成果のホームページ等への公開を行った。

(5) 教育活動（小原理事）

第 19 回年次大会でワークショップを開催、さらに災害看護教育セミナー（1 回）、学会認証に繋げる「まちの減災ナース」指導者養成プログラム（案）の検討を行った。

(6) 国際交流の推進（南副理事長）

学術交流を主とした情報発信のためにホームページの英語バージョンの充実、本学会および日本における災害情報の発信、災害看護に関する国際的な提言、海外の災害時支援の継続検討、世界災害看護学会との連携活動と事務局としての支援活動等を行い、第 19 回年次大会で学会企画を開催した。

(7) 募金活動（竹崎理事）

平成 29 年度は特に募金活動はなかった。

(8) 災害看護用語検討プロジェクト（酒井理事）

災害看護関連用語（案）のウェブサイトの管理・運営、災害看護関連用語（案）の検討を行い（40 用語に 31 用語追加し、71 用語を 12 の枠組みに分類した）、第 19 回年次大会で交流集会を開催し、災害看護関連用語の検討と広報活動を行った。

(9) 熊本地震看護プロジェクト（石井理事）

復興期における支援ニーズと支援活動の査定を継続し、実際の活動は特になかった。

(10) 将来構想プロジェクト（石井理事）

将来構想プロジェクトを設置し、災害看護学の今後のあり方と発展のしくみづくりの検討を行った。

(11) 学術集会（南副理事長）

第 19 回年次大会の企画・開催、第 20 回年次大会の準備を行った。

(12) その他（三浦理事）

看保連と日本看護系学会協議会活動への参加、日本学術会議事業・防災学術連携体への参加と情報発信を行った。

2) 平成 29 年度会計報告・監査報告の承認（竹崎理事・笥監事）：代議員会資料 p12～20

代議員会資料に基づき、平成 29 年度会計報告を行った。

笥監事より p18 の会計確認報告、p19 の会計確認報告に対する対応について説明があった。また、平成 30 年 7 月 21 日に当該年度における事業報告、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について検討した結果、適正な執行が行われていることが報告された。

以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

① 質問：法人化後税理士への謝金等は決算書のどこに記載されているか。

回答：p17 の事務局費に含まれている。

② 質問：可能であればその詳細の内訳を教えてください。

回答：p15 の登録業務委託費の株式会社ガリレオの委託費の中に含まれている。

3) 平成 30 年度事業計画案の承認（山本理事長）：代議員会資料 p21～23

代議員会資料に基づき説明を行い、当日追加修正も含め全会一致で承認された。

(1) 学会誌編集・発行

学会誌第 20 巻 1 号～3 号を発刊予定である。

(2) 組織会員の活動推進

組織会員間の情報共有と相互啓発の推進、第 20 回年次大会で組織会員委員会企画を行う。

(3) 社会貢献・広報活動

ニューズレターの発刊（第 36 号、第 37 号）、第 20 回年次大会で「市民公開講座」を開催する。

(4) ネットワーク活動

災害時の初期調査、初動調査、継続調査等を実施する。

(5) 教育活動

災害看護教育ワークショップおよび教育セミナーの企画と開催、第 20 回年次大会で「まちの減災ナース指導者養成」キックオフセミナーを開催し、学会認証に向けた検討を行う。

(6) 国際交流の推進

第 5 回世界災害看護学会（2018 年 10 月、ドイツ）開催支援、および理事会開催を行う。また、海外の災害時支援の検討としてネパールの災害看護リーダー研修の後方支援を予定している。

(7) 募金活動

平成 30 年 7 月豪雨災害の募金活動を実施している。

(8) 災害看護用語検討プロジェクト

学会員参加型により災害看護用語検討ウェブサイトを管理・運営する。

(9) 熊本地震看護プロジェクト

支援ニーズに関する情報収集と支援活動を実施する。

(10) 将来構想プロジェクト

災害看護学の今後の在り方、発展のしくみづくりの計画と実施

(11) 若手アカデミー（仮称）プロジェクト

若手アカデミー（仮称）の設立に向けた検討を行う。

(12) 学術集会

第 19 回年次大会の企画・開催、第 20 回年次大会の準備を行う。

(13) 20 周年記念事業（追加）

20 周年記念事業の企画と実施を行う。

(14) その他

関連組織・団体との連携・活動を推進する。

4) 平成 30 年度予算案の承認（竹崎理事）：代議員会資料 p24

代議員会資料に基づき平成 30 年度予算案の説明を行った。

平成 30 年度事業報告と予算案について、以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

① 質問：第 20 回年次大会の予算が前年度繰越金相当になっているのはなぜか。

回答：各年次大会で開催の立地等で予算を検討しており、偶然、第 20 回年次大会の場合には、前年度繰越金と同額になっている。

② 質問：熊本地震看護プロジェクトの平成 29 年度活動実績がなく、平成 30 年度予算として募金の余剰があるという理由だけで必要なものか。

回答：益城町から委嘱を受けており、保健師との連携は継続している。ニーズがあった時に要請がある予定であったが、実際には平成 29 年度の実績はなかった。しかし、中長期の新たな課題が出てきているため何か支援ができないかを計画している。

回答：熊本地震の支援活動以外には会計上流用できない。

③ 質問：平成 30 年豪雨の募金についても、この豪雨災害の支援活動以外には使用できないという理解でよいか。

回答：被災された会員および看護職により災害看護活動を支援するために募金活動をしている。この趣旨に沿った中で募金が使用されることになる（平成 30 年 7 月豪雨募金のチラシ参照）。

5) 功労者表彰規程の改正の承認（三浦理事）：代議員会資料 p26

法人化により、定款を根拠とした内容に改正する旨説明された。質疑なく、全会一致で承認された。

6) 一般社団法人日本災害看護学会功労者について（三浦理事）：追加報告

功労者表彰式は第 20 回総会終了後の予定されている。東ますみ氏（神戸女子大学）、竹

崎久美子氏（高知県立大学）、近田敬子氏（鳥取看護大学）、鵜田猛氏（亀田医療技術専門学校）、中村恵子氏（札幌市立大学）、三橋睦子氏（久留米大学）、森下安子氏（高知県立大学）、の7名の功労者への表彰を予定している。

7) 20周年記念事業について（山本理事）：追加報告

20周年記念式典は、8月11日（土）の第20回年次大会2日目、10:00～10:20を予定しており、兵庫県井戸知事がご出席予定である。その後、20周年特別講演「災害看護学の発展：その軌跡と未来への展望」（南裕子氏）、「人間にとって安全・安心なコミュニティとは何か―進化の視点から考える」（山極壽一氏：日本学術会議会長／京都大学総長）が予定されている。

8) 第22回年次大会 大会長推薦の承認（山本理事長）：代議員会資料 p27

日本赤十字広島看護大学の渡邊智恵氏が推薦され、全会一致で承認された。2020年9月5日（土）、6日（日）、広島国際会議場で開催予定である。

7. 第21回年次大会会長あいさつ


尾山とし子氏（日本赤十字北海道看護大学 成人看護学領域 教授）より挨拶があった。テーマは「平成を紐とき、次代に挑む災害看護」、会期は2019年9月6日（金）・7日（土・祝）、日本赤十字北海道看護大学・北見工業大学（北海道北見市）で行われる。


9. 閉会のあいさつ

南副理事長の挨拶により、平成30年度定時代議員会は閉会した。

一般社団法人日本災害看護学会 平成30年度定時代議員会 議事録の承認

平成30年8月9日

議長 山本あい子 

議事録署名人 近田敬子 

議事録署名人 森下安子 